

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	文 学 部	身分	教授
氏名	若林茂則		
NAME	Wakabayashi, Shigenori		

1. 研究課題

（和文）二言語話者の言語的知識とメタ言語的知識

（英文）Bilinguals' linguistic and Meta-linguistic knowledge

2. 研究期間

1年間（2019年度）

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

（和文）

1960年代から始まった第二言語習得研究は、約60年の研究を経て、多くの点が明らかになってきた。中でも、形態統語に関する研究は着実に成果を上げ、特に生成文法に基づく第二言語習得研究では、言語理論の進展に並行して、様々な知見をもたらしてきている。2018年時点の研究では、年齢や学習環境に関わらず、普遍的にみられる形態統語の知識の発達と、その中にあられる母語の影響を取り上げながら、母語の影響がかなり限定されたものであるという1970年代から80年代以降の知見を踏まえたうえで、現在の生成文法理論を基に、第二言語習得研究の根本的な原理に迫りつつある。一方で、第二言語習得の「言語知識」と、学習環境との関係については、「明示的知識と暗示的知識の関係」など、言語理論によらない枠組みでの研究が多く、実証的な研究はほとんど行われておらず、残念ながら、言語話者の振る舞いを説明するには十分ではない。「言語知識」と「(学習として、あるいは、教室で習った)メタ言語知識」が、言語使用の際に別々のものとして働くのであれば、どのような形で働くのか。本研究では、まだ取り組みの少ないこの領域に踏み込んで、伝統的な生成文法で仮定されてきた「モジュールとしての言語知識」と、「明示的なメタ言語知識」がどのような形で言語使用に関わっているかについてのモデル化を図り、実証的な研究のための枠組みのための基盤としたいと考え、英国ケンブリッジ大学での文献研究を行った。

（英文）Studies of second language acquisition have successfully revealed a number of aspects of bilinguals' knowledge, especially the achievement of generative approaches to second language acquisition have been contributing to cognitive science along with the progress of theoretical linguistics. Based on early studies on 1970's and 1980's, which showed that L1 influence may be restricted to certain areas of learner grammar, current research appears to approach the situation where fundamental similarities and differences can be examined in scientific ways with rigorous theoretical and empirical evidence. However, learners' metalinguistic knowledge has been largely ignored in this line of research. In order to formally describe the relationship between learners' linguistic and meta-linguistic knowledge, I reviewed relevant literature at the University of Cambridge.